

## 2. 交流サロン活動と支援の必要な児童生徒の安心な居場所づくり

グループ名 特定非営利活動法人 びえいくらしの助けあい  
代表者 理事長 井内 昭子

### ①活動の目的

私たちは高齢者介護福祉や障がい者福祉の隙間を埋めて、共に過ごし、不便や困りごとを解決するための仕組みを共に創ることを目的に活動してきました。

とりわけ、ほぼ週に一度定期的に「ひなたぼっこの家」に集まり、地域に住む高齢者や障がい者の閉じこもり解消、生きがい（仲間）づくり、支援の必要な児童生徒とその保護者が安心できる居場所づくりを目的に交流サロン活動を行っています。

### ②活動概要

#### ・グループの概要

地域にある七つの社会福祉関係団体の会員が中心となり、ボランティアグループを結成。

その後、退職者や主婦など時間と気持ちにゆとりのあるアクティブシニアに加入を呼びかけ、NPO法人「びえいくらしの助けあい」を結成（平成16年）し、主に美瑛町内で活動し現在に至ります。

#### ・現在までの主な活動歴

##### i 交流サロン活動「ひなたぼっこの家」

ii 在宅高齢者及び障がい者の訪問によるくらし支援活動

iii 子育て中のママ応援活動（育児の悩み相談受付など）

iv 美瑛町内の役場、病院、公共施設、道路等を対象に、当事者によるユーザビリティ（使いやすさ）調査活動。

#### ・交流サロン活動「ひなたぼっこの家」の活動概要

平成18年に美瑛町市街地にあった町所有の空き家物件を賃借し、「ひなたぼっこの家」と名付け交流サロン活動を開始しました。

この建物を拠点に、開設当初より、地域の高齢者や障がい者を対象に介護の予防や閉じこもり防止を目的に活動し、地域にも認知され年々活動の回数や参加人数を増やしてきました。

交流サロン活動は、活動助成期間（平成26年10月～平成27年9月）に合計40回開催し、季節に合わせた行事を取り入れつつ、NPO会員と共に、健康体操、歌やゲーム、昼食会、おしゃべり、切り絵体験、保健師を招いての健康教室、手話サークルの方と手話

交流会などを行ってきました。

従来は高齢者や障がい者の方が中心でしたが、今年度より支援の必要な児童生徒も参加するようになり、保護者が不在の際にも安心な居場所として利用されてきました。

・活動実績

開催日数	40日	参加人数 (利用者)	421人	会員従事 人数 (支援者)	339人
1日あたり平均			10.5人		8.5人

・活動助成期間実績推移（平成26年10月～平成27年9月）

	開催日数	参加人数	会員参加人数
10月	4日	43人	33人
11月	4日	47人	36人
12月	3日	39人	28人
1月	2日	18人	18人
2月	3日	33人	29人
3月	3日	35人	26人
4月	2日	18人	14人
5月	4日	37人	36人
6月	4日	38人	24人
7月	4日	42人	34人
8月	3日	30人	24人
9月	4日	41人	37人
合計	40日	421人	339人

・活動の様子（画像）



活動の拠点である「ひなたぼっこの家」全景（上）と看板（右）

「クリスマス会」



子どもと一緒に食事をして、健康体操にも取り組みました。

「ひなまつり」



子どもと一緒にレクリエーション。

### ③決算報告書

#### 収入の部

科目	予算額	決算額	摘要
大同生命厚生事業団助成金	200,000	200,000	シニアボランティア助成金
自己資金	50,000	63,601	
合計	250,000	263,601	

#### 支出の部

科目	予算額	決算額	摘要
食材費	80,000	138,652	精米、調味料他
材料費	40,000	14,250	レク材料
行事費	50,000	52,867	クリスマスケーキ代他
消耗品費	5,000	8,652	トイレットペーパー他
保険料	10,000	10,580	ボランティア保険
印刷代	25,000	12,600	トナー代他
交通費	40,000	26,000	ガソリン代費用弁償
合計	250,000	263,601	

#### ・最後に

助成事業期間中の二月、北海道の厳寒の時期に水道を凍結させてしまい、予期せぬその修繕費が必要となりました。一時的に交流サロン活動の拠点を近隣にある社会福祉法人が運営する事業所内に移し、その後無事修繕することができたのですが、今回の助成金が無ければ活動自体を縮小しなければならなかったと安堵しております。

この度の助成金は、当法人にとって貴重な応援資金として有効に活用させていただきました。

本当にありがとうございました。